

## 会員の声

## 一般の人への天文情報の伝達

## ～金星と木星の接近、「はやぶさ 2」の光跡に関連して～

外山 禎彦（元大阪府立高校）

本誌 3 月号の大西浩次氏の表紙写真と「表紙の言葉」の記事にもある通り、この 3 月 2 日に金星と木星が 32' の距離にまで接近する見事な光景を眺めることができました。

この眺めは一般の人々にもきっと喜んで戴けるものと思ひ、私は事前に知り合いの方々に広くお知らせしたのでした。そして多くの方から、「見ることができてよかった」、「よく知らせて下さった」、と望外のお礼をたくさん戴いたのでした。

ところがこのニュースは事前にも事後にも、テレビや新聞では私の知る限り全く報道されていません。残念なことです。木星や金星が太陽系に属していて、星々の間を行きつ戻りつしながら動いて行くので惑星と呼ばれている、などの事実はたいていの人が知識としてよく知っていることですが、夜空で金星や木星を意識してみたり、星々の間を動いてゆく様子を実感をもって見ている人はそれ程多くないでしょう。

ところが、この両星の接近前後の数日間の動きを見れば、両惑星の動きを実感できる絶好の機会だったわけで、広く広報されていれば、天文知識の普及に大きく寄与できたのと思うにつけても、全く惜しいことをしたものです。

一般の人からするとそれほどでもないことに何年に一度とかなどと大騒ぎするより、よっぽど意義があったのにとすると、残念です。

「はやぶさ 2」の地球帰還の時も、新聞にでかでかと南天の空に光跡を引いて戻ってきた写真が掲載されていたのですが、その写真をよく見ると南十字星がくっきりと新聞によってはきれいに写し出されていました。

南十字星ほど日本人によく知られた星座はないのに、実際に見ことのある人は実に少ない星座であると思われまふ。そこで、光跡の傍に写っている十字星を、十字の筋を付け加えて示し、「南十字を掠めて帰還の『はやぶさ 2』」とでも見出しを付けた写真を紙面に掲載すれば、多くの日本人に共感をもって受け止められたのにとすると誠に惜しいことをしたものだと思われまふ。

かように、一般の人が見て感心し、しかも観望しやすい価値ある天文現象を、我が研究会では報道関係者に大いに提示することが肝要ではないでしょうか。

外山 禎彦

\* \* \* \* \*